

栄光園だより
第103号

2016年4月30日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748

編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

2016年度に向けて

理事長 友永丈一

1973(昭和48)年に別府中央ライオンズクラブの皆さんからご寄贈頂いた桜が、今年も、数えてみると43回目の見事な花を咲かせてくれ、園児をはじめ多くの人たちの目を楽しませてくれました。園内には、この桜の他にも色々な方々からご寄贈頂いた木々や品々がたくさんあります。私も理事長をお受けして4年経ちましたが、強く感じることは皆様の物心両面にわたるご支援、ご協力のありがたさです。子どもたちの健やかな成長に惜しみなくお力添えいただく皆様に心からお礼申し上げます。

児童養護施設では2012年より始めた小規模グループでの取り組みが、職員や子どもたちにも定着してきました。まず、各ホームを訪ねてみました。各ホーム共になんとなく生活の匂いが感

じられ、普通の家庭のような生活に近づいて来ていることに安心しました。

4月から念願の地域小規模児童養護施設を南荘園町に開設することができました。この施設は、地域社会の民間住宅を活用して、近隣住民との適切な関係を保持しつつ、家庭的な環境の中で養護を実施することにより、子どもが社会的自立を促進するものであり、初の試みであり緊張感を持って、子どもたちのために精一杯取り組んでいきます。

乳児院では、養育形態を全て小規模グループ(家庭的養護)とするために、老朽化している施設の建て替えを計画しています。建て替え施設の中には、子育て世帯の交流や集いの場・地域団体の会議や研修会等集いの場・里親等の支援、交流の場・災害時の避難場所



満開の桜の下でのバーベキューで満たされた笑顔

等地域に密着した事業実施のための、地域交流スペースを整備します。まだまだ課題もありますが何としても実現したいと思っています。

全国的に待機児童が話題になっていますが、青山、野口両保育所共に、保育士の確保、保育士の仕事量、報酬等保育する側としての全国共通の悩みを抱えています。両保育所共に、子どもにとって毎日が楽しい保育であることは勿論、青山保育所では、「食育」を重視し、身体の成長のみならず食材の知

識を深めさせて子どもたちに食事と食材の繋がりに関心を持たせる保育をおこなっています。野口保育所では、園庭の木製遊具や木製品を通じて木材の有する「暖かさ」「やさしさ」を感じ、五感を十分に働かせて体力の増進や好奇心、探求心を育む「木育」に取り組んでいます。

各施設の現況や課題等を書いてきましたが、職員一同「子どもにとって何が一番良いのか」を第一に考えて日々励んでいます。皆様方のご支援、ご協力を重ねて御礼申し上げますとともに、今後とも宜しくお願いいたします。

児童養護施設

各ホーム紹介

II キャサリンホーム

ホーム長 宮崎 洋子

キャサリンホームは、小学校2年から6年まで男児5名の元気な生活集団で

す。男児ばかりのホームなので、子どもたちの笑い声や喧嘩など様々な声がホームの中で響いています。その中でも、一人ひとり個性豊かな子どもたちを尊重し将来に向けて、成長していくお手伝いをホーム職員一丸となって支援していこうと思っております。しかし、私たちの力だけでは難しい場面もあり、学校や医療機関の力を借りて適切な支援が行なわれるよう、まずは職員との連携を取り共通理解しあい子どもたちのために取り組んでいきます。

ウエストホーム

ホーム長 大野 将也

今年度ウエストホームは高校2年から中学1年までの男児5名のホーム編成となりました。

ホームの児童の中には支援学校に通う児童もおり、それぞれに様々な課題を抱えて生活を送っております。また、近年では中高生の途中入所の児童も多いため、自立に向けた取り組みに加えて、基本的な生活習慣の確立や基礎学力の醸成も目指しています。

そのためには、医療機関や学校などの関係機関との連携も図りながら、職員が一体となって子どもたちのコミュニケーション能力の向上や、社会性の取得など自立に向けた支援に当たって行きたいと思えます。

今年度より、ホームの職員も入れ替

わり、大人も子どもも手探りの状態での新年度のスタートとなりましたが、「話し合う」ことを大切にし、より良い関係が築けるように子どもたちと関わっていこうと思えます。

ムラカミホーム

ホーム長 原田 康子

ムラカミホームは、2歳から高校2年までの女児6名が生活するホームです。栄光園の中でも一番小さい子どもたちが生活しているホームでもあります。

子どもたちは、年を重ねた私にとって希望の光です。子どもたちが大きくなった時のことを想像しながら日々子どもたちの養育に携わっています。

私たち職員集団は、手を携えていきながら子どもたちの健やかな成長と、より良い生活のために心を尽くしていきたいのです。子どもたちにとってかけがえのないこの子ども時代が幸せなものとなるよう日々子どもたちを見守り、子どもたちと共に生活していきたいと思っております。

子どもは、社会の宝物です。子どもたちの未来のためにご理解いただき、ご支援をお願いいたします。



マツモトホーム

ホーム長 竹原 史雅

マツモトホームは、幼稚園児から中学1年までの女児6名の子どもたちが一緒に生活しています。

遊びや勉強など生活のすべての面で夢中になり、自己主張が強くなってしまうこともあります。子どもたちの成長の一部だと思っております。

思春期の児童は、自我が芽生え、心に不安定さが出てくる年頃でもありますが、日常生活の中では会話を中心に何でも話や相談できる雰囲気や関係作りを大切にしています。

子どもたちの抱えている心の傷や課題は一人ひとり異なりますが、生活の中で子どもたちの成長を温かく見守り、ホーム職員一丸となって養育に取り組んでいます。

オゴウホーム

ホーム長 三重野 慶子

オゴウホームには4歳の男の子から中学3年の女の子の5名が生活しております。

施設には兄弟で入所してくる子どもたちもいるため、一緒に生活ができるように男女混合のホームとなっております。

日々のあゆみの中で、ホームでの生活が「あたたかい家庭」であったなと感じ

域小規模児童養護施設「ノマチホーム」を本園から100mほど西の南荘園町4組に、この4月に開設いたしました。そこでホーム長をさせていただいている藤本と申します。

当ホームは、高校生1名、中学生4名の男子児童が生活しています。4名の職員は子どもたちの協力を得ながら、地域に根差した、ごく普通の生活体験から自立に向けた養育を目指します。地域の方々との交流を大切に、色々と助けていただきながら、また、地域に役立つよう心がけて、穏やかに生活をしていきたいと思っています。まだまだ荒削りなホームではありますが、温かく見守っていただくとさいわいです。

今年度もよろしくお願いたします。



職業指導員

藤内 貴章

「今まで園の職員をはじめ多くの人に支えてもらいここまで来れました。これから頑張る仕事に励み、恩返しをしていきたいです。」

大分県立農業大学校卒業式後に行われたクラス懇談会の場で各生徒が保護者に対し感謝の言葉を述べる中、本人が語ってくれた一文です。

本人は0歳で乳児院に入所。2歳から20歳になるまで児童養護施設で生活して

「わたしたちの神は生きる力を与えてくださいました。」

エズラ記9章9節

青山保育所 小久保 次郎

ペルシャの王キュロスの第一年に、神は王であるキュロスに神の神殿を建てることを命じられました。そこで神に心を動かされた者は、皆、エルサレムの主の神殿を建てるためにユダのエルサレムに上っていきとうしました。バビロンの王ネブカドネツアルによって、奴隷とされていた人々は、喜び勇んでユダに帰ってきました。これら会衆は、四万二千三百六十人であったとエズラ記は伝えています(2章64節)。他にも男女の使用人、詠唱者がいました。馬、らば、らくだ、ろばも一緒です。人、家畜とも大変な数です。様々な困難がありましたが、ダレイオス王の治世第六年に神殿は完成をします。囚われの地から、帰ってきた捕囚の子たちの喜びはいかほどであったのでしょうか。日本の歴史を振り返ると、敗戦となりシベリア抑留の悲劇が起こりました。寒さと飢えと重労働のため、何万人もの人々が命を落としました。その悲劇を思い出しながら、シベリア鉄道に私は乗ったことがあります。また、ユダヤ人への迫害が第3帝国と自称したドイツでも行われ、多くのユダヤ人が強制収容所へと送られて、その尊い命を落としました。それら収容所の最初であるダッハウ収容所をも訪ねたことがあります。そこでは、人体実験も行われていました。ドイツの飛行機が海中に落ちた時に、パイロットの存命率と海中温度との関係を調べるという目的の実験が行われていました。冷たい海中でどれくらいの時間、存命できるかという実験のため、実際に冷たい水にユダヤ人がつけられました。こうした実験のため、多くのユダヤ人が命を落としました。非人道的なことが日常のようになされていたのです。昔の捕囚の民であったユダヤ人も試練をうけていたでしょう。彼らの生きる根拠は、神が必ず救ってくださるという強い信仰でした。神がユダヤ人たちを奴隷のまま捨て去ることなく、生きる力を与えてくださったと聖書は証言しています。神が私たちの未来を命を創造されるのです。かつて神は世界を創造され、その中に生きる人間を創造されました。神が常に主語なのです。私たちの人生そのものも神の思い、神の計画の中にあります。生を否定する現実の中にあっても、常に神が救いを与えてくださいます。神から生きる力を共に受けましょう。



きた男の子です。積み重ねてきた時間の長さの分だけたくさん思い出があり、その一言に込められた心情を思うと自然に涙が溢れてきました。

決して平坦とは言えない園での生活でしたが、農業大学校に入ってから本人の成長には目を見張るものがありました。今年度の夏休み明け早々には緒方町にある小ねぎを栽培する農業法人の内定が決定。学校の先生方や実習先の農家の

方々から本格的に農業を学んでいく中で、第一次産業の大切さを語る姿に頼もしさを覚えたことをつい最近のことのように思い出します。

また今年度6月には園内にある自立進学資金の後押しを受け、ドイツ研修旅行への参加が実現。7日間の日程で現地農家にホームステイ。その間に葡萄、アスパラガス栽培農家やビート試験農場、農業協同組合など様々な農場や施設を訪

間。帰国後に体験した内容を話してくれる眼差しは、何よりもその研修が自身の刺激となり有意義であったことを物語っていました。

この春からいよいよ社会人としての生活がスタートしました。自身の方で未来を切り拓いていけるよう、これからも応援を続けていきたいと思えます。いつの日か本人の育てた野菜が各ホームの食卓に並ぶ日を夢に見ながら。

ノマチホーム

ホーム長 藤本 一明

栄光園としては初めての取り組みの地



牡丹の花壇 別府ロータリークラブ様寄贈



夏に産まれたかぶとむしの幼虫が冬になり、こんなに丸々と成長しました♪

かぶとむしの幼虫♪

り、自分たちでおやつのだーナツを選んだりしました。行きも帰りも自分で電車の切符を買って帰ってきました。普段なかなか体験出来ない、保育所とは違う公共の場での買い物や切符を買って電車に乗るなどの体験はどれも新鮮だったようで、子どもたちの目は輝いていました。



研修会に参加して

主任保育士 二宮 香織

大分県認定の保育コーディネーター養成研修の、大分県認定資格受講者との交流研修会に参加しました。

今回は「地域力：誰もが支援のパートナー」というテーマの話でした。講師の方が福祉という視点で物事を考えるとこれから先の日本が不安というお話がありました。なぜなら「他人に共感する力が全体的に不足しているから」ということでした。一昔前は「可哀想と思うだけで手を差し伸べる勇気のない日本人」と言われていましたが、現在は「困っている人を見て何も感じない=人の立場に立ってない日本人」が増えていると感じているそうです。特に人と関わる職種の人間が人の立場に立ってないということはとても致命的なことで、当たり前のことだけれど、特に福祉の面では「人の気持ちに気づいて、その気持ちに寄り添う共感性」の部分を今一度大切に!! いわゆる思いやりですね!とされておりました。

本当に当たり前のことですが、私自身も毎日人と関わっているからこそ、相手に共感し、思いやることを改めて大切に、子どもたちにも「他人の気持ちに気づく」ことの大切さを知らせていきたいと感じました。

あまりの大きさに子どもたちもびっぴり! 大人は、大きすぎて触るのを躊躇してしまふほどの大きさなのですが、子どもたちはなんのその♪ とんどん手に乗せたり、摘んだりと楽しそうに触っていました。卵から幼虫になる過程を見ているので、怖がることなく幼虫の成長を心から喜んでいようでした!

寒さなんてへっちゃら

きりん組のお友だちが数十年前に一度の寒波で雪が積もった栄光園グラウンドに遊びに行きました。グラウンドに着くと日陰の部分はしっかりと雪が残っていて、その様子を見たりきりん組のお友だちは興奮していました。子どもたちは雪をめぐって走り出し、雪合戦や雪だるま作りが始まります。日ご



る園庭で遊んでいる時には「寒い」「お部屋に入りたくない」と言っているお友だちも、この時ばかりは寒さを忘れて夢中になって遊んでいました。子どもたちが夢中になったときの遊びはとても充実している、目の前の雪だるま作りや雪合戦に

野口保育所

没頭している姿に私たち保育士は微笑ましく、たくましささえも感じます。場面は変わりますが、雪が舞う日に園庭で遊んでいると、あるお友だちが、その雪の様子を見て「雪が追いかけてこしょん」と私たち保育士に話しました。その日は風もあり、まさしく雪同士が追いかけてくをしているかのようでした。私たち保育士は時々子どもたちの発想に感心させられることがあります。今回もまさに「なるほど!」と感じました。皆さんもお子さんの何気ない一言に感心することがあるのではないのでしょうか。子どもたちの発想の豊かさにはかないませぬ。

まめまき

新しい年度が始まりました。今年度も職員一同身を引き締め、資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育が出来るようにしていきたいと思えます。今年度もよろしくお願ひ致します。

乳児院

お出かけ楽しいよ

乳児院の子どもたちは、なかなか出かける機会が少ないのですが、大好きな担当職員とお出かけは、特別ワクワクして嬉しいうです。

お出かけ用の洋服に着替え、お気に入りのカバンを持ってどの子どもとびきりの笑顔で「いってきまーす」と元気に出かけていきます。



よりたくさんのご飯が出てきて、「うわーっ」と驚いたり、子どもにとっては本場に一つ一つが初めての経験で、その反応がとてもかわいらしいです。そんな姿を見ると、できるだけたくさんお出かけの計画して、子どもの心に残るようにたくさんさんの思い出を作りたいと思います。

取り組んでいこう

乳児院では、毎月摂食カウンセラーの中島知夏子先生に摂食の指導を受けています。摂食を通して子どもへの関わり方のアドバイスを受け、グループの職員で話し合いながら、統一した関わり方をしています。



今回、ゆっくりとした発達の子どもの関わりについて、園全体で取り組んでみようということ「摂食」を中心に、栄養士、看護師、心理士、保育士といろいろな立場から見ていきました。例えば、普段より落ちていきまという見方が出た時には、なぜ落ち着かないのかという問題点をあげ、それにはどういう方法で対応すれば落ち着く(安心する)のかということをそれぞれの立場から出し合い、食事部分では大好きな担当職員が必ず膝に座らせてゆっくりと食べさせるようにする。遊びの部分ではその子が好き

青山保育所

ぼくもやってみよう!

ある1歳児(1歳8ヶ月)のお友だちがフラフープの中で、お尻を振るような、おもしろい動きをしていたので、近くに行ってみると、その子の視線の先にはきりん組のお友だちが、フラフープを楽しそうに回している姿がありました。その子は



生の体験

それをみて、自分も回しているつもりになっていたのでしよう。その姿がとてもかわいかったです。1歳児の子どもたちは、自分よりも大きいお兄さんやお姉さんの姿を見ながら、真似をして遊ぶ姿が多く見られます。アスレチックでも、きりん組やぞう組の子どもたちの真似をして太鼓橋の所からではなく、ネットの所やサイドから登ろうとチャレンジする姿が、たくさんあります。見ている保育士はとてもひやひやしますが、子どもが「自分もやってみよう!」とチャレンジする気持ちを大事に、補助したり、見守ったりしたいと思えます。出来たときには、一緒に大喜びしたいと思います。



「里親支援ってなに？」と思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。里親支援専門相談員を知ってもらうには、まず『里親制度』を知ってもらわなければなりませんので少しお話をさせていただきます。

『里親制度』とは、要保護児童を里親が自らの家庭に迎え入れ、養育することに関する制度のことをいいます。養育の期間は数日から数週間という短期のもの、数か月から数十年という長期のものまでさまざまです。また里親には、養育里親・養子縁組里親・親族里親・トライアル里親とあり、里親となる条件や内容が違ってきます。里親宅に委託をされる子どもは、実親から直接委託される場合と、施設から委託される場合があります。委託された子ども(里子)や里親や実親が、新しい関係・環境の下で抱えるさまざまな課題を乗り越えていけるよう寄り添うのが里親支援専門相談員の仕事です。

大分県では、里親支援専門相談員という呼び方を使用せず、里親ソーシャルワーカー(SSW)という呼び方を使用しています。これは支援という言葉に疑問を抱き、寄り添いを大切にしたいという思いからです。

現在、大分県では8か所の児童養護施設、1か所の乳児院にSSWが配置されており、4つの担当地域に分かれて活動をしています。

里親支援について

里親ソーシャルワーカー 財前 美佳



SSWの主な活動として、担当地域の里親家庭への訪問があります。訪問し、里親や里子の日常の様子や近況、喜びや困りなどいろいろなお話を聞かせていただきます。訪問で見聞きした内容は、児童相談所で行われる定期連絡会で報告をし、すべてのSSWに共有します。なので、自分の担当地域以外の里子の様子をすることもできます。栄光園からも、多くの子どもが里子として里親宅に委託されており、訪問を行ったり、定期連絡会で話を聞いたりすることで、里親から多くの愛情をもらい、伸び伸びと成長している里子の様子を知ることができます。

先日、高校に合格したことや、高校を卒業し就職が決まったという嬉しい報告を受けました。また、園の職員にその様子を報告することで、職員もその子の成長を喜び、里親への理解も深まっています。

里親への理解が深まることで、「この子が交流できる里親さんはいませんか？」と職員から相談をされることもでてきて、里親宅での養育は意義があるという考えが、施設職員にも定着してきているように感じます。

要保護児童を養育する者同士、里親と施設が協働し、子どもたちにより望ましい養育環境を与えられるような関係でいられるよう、SSWとして何ができるかを日々考え、今後も頑張りたいと思います。

自立進学資金の状況

昨年度より始めた自立進学資金は、前身「栄光園ファミリークラブ」から引き継がれ、以後34名のご協力者により、3月31日現在、収入累計419万円に達しました。この第1号の利用者はこの3月大分県立農業大学校を卒業し、4月より農業法人に就職が決まり、活躍が期待されております。彼は在学中もこの資金により大学の企画したドイツでの研修に参加することが出来、有意義な体験をすることも出来ました。

学習指導のボランティアの方たちのご協力を得て、彼に続き大学を目指している子どもたちが育つていることは大変うれしいことです。奨学金の利用と併せ、自立進学資金により彼らの道が広く開かれることを願っております。皆様方のお志を受けて子どもたちが愛されていることを実感し、成長していく喜びを私たち職員も感じ、心から感謝いたしております。今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。

ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務局は、別府市南荘園町3組です。

賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

4歳や5歳の子鬼たちも登場！ 今年は怖い鬼やピンクの鬼、子鬼たちとたくさん鬼たちとの豆まきを楽しみました。

豆まきが終わってからは、みんなで歳の数だけ豆を食べたり恵方巻きも食べて体の中にある鬼を楽しく美味しく追い払いました。

今年も2月に総合避難訓練を行いました。毎月行っている避難訓練です



避難訓練

3月3日にひな祭り会をしました。今年は、就学児と担当でひなまつり会を担当

が、2月は消防署から予防課の方に来て園していただき、普段の子どもたちとの避難訓練を見てもらったり、保育士の通報訓練や消火訓練もしてもらいました。子どもたちや保育士も毎月ある避難訓練にいつも真剣に取り組んでいますが、消防署の方がいるだけで身が引き締まり、いつも以上に子どもたちも保育士も真剣でした。

避難訓練が終わった後は、消防車を見学させてもらったり、乗せてもらったりして楽しみました。

火事や地震などいつ災害が起きるかわからないので、園で起きた時は子どもたちを守るように、これからも真剣に子どもたちと保育士と一緒に訓練をしていこうと思いました。

ひなまつり会



当し、ひなまつりのお話を全クラスの前で披露したり、午後のおやつは桜クッキーを担当と一緒に作って、各クラスへ配ったりと就学児がたくさん活躍した会になりました。ひなまつりランチもお雛様を見ながら、全クラス集まって会食をしました。カルピスで乾杯したり、デザートはひなあられも食べました。みんなで、ふんわりとしたひなまつりの雰囲気味わった楽しいひなまつり会になりました。

お別れ遠足

1年間一緒に過ごしたお友だちや保育士と、小さいクラスは近くの公園にお散歩に行ったり、4歳・5歳児は卒園ということもあり、今年はアフリカカンサファリまで遠足に行ってきました。



歌いながら歩き菜の花やサラサラ流れる小川を見ながら、4月に入った頃のまだまだ幼かった頃の子どもたちを思い出して、1年間の成長に少し胸が熱くなった保育士達でした。

4・5歳児はアフリカカンサファリでお弁当を食べたり、ジャングルバスに乗って、動物にえさをあげたりと、お友だちや保育士とたくさん楽しい思い出ができた一日でした。

卒園式

先日、27年度の野口保育所の卒園式が行われました。

今年には16名の子どもたちが幼稚園や小学校にあがる期待と喜びを胸に元気いっぱい野口保育所を巣立って行きました。子どもたちがどこの場所でも元気に頑張ることを願って、応援したいと思います。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp



社会福祉法人 栄光園
職員の名簿

2016年 1~4月

採用	異動	退職
<ul style="list-style-type: none"> 1月8日付 <ul style="list-style-type: none"> ● 乳児院 藤田 直美 (調理員等) 2月15日付 <ul style="list-style-type: none"> ● 乳児院 渡部 艶子 (看護師) 4月1日付 <ul style="list-style-type: none"> ● 児童養護施設 萩尾 裕樹 (保育士) 小野 紘子 (保育士) 直野 弥呼 (保育士) ● 乳児院 小野真里奈 (保育士) 大久保瑞穂 (保育士) 齋藤 光里 (保育士) 井上梨星菜 (保育士) 	<ul style="list-style-type: none"> 4月1日付 <ul style="list-style-type: none"> ● 児童養護施設 土谷 聡一 (児童指導員 乳児院より) 大石 香奈 (児童指導員 乳児院より) 2月29日付 <ul style="list-style-type: none"> ● 乳児院 木下 菜子 (調理員等) 3月31日付 <ul style="list-style-type: none"> ● 児童養護施設 京野 藤雄 (児童指導員) ● 乳児院 田中 茉衣 (児童指導員) 長谷部あつ子 (調理員等) 宇部 昭雄 (調理員等) 渡部 艶子 (看護師) ● 青山保育所 道下 鈴奈 (保育士) ● 野口保育所 安倍 愛 (保育士) 	

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員への励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

児童養護施設の子どものための進学等を重点的に支援する目的で始めた「自立進学資金(栄光園ファミリークラブ)」の枠は上級学校への進学により社会で活躍できる領域を格段に広げる重要なアフターケアだと考えております。ご協力よろしくお願いいたします。

新年度も皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。

【2016年1月1日より2016年3月31日まで】

賛助金

- 愛燐幼稚園様
- 岩尾 玉枝様
- 岩尾 哲也様
- 岡口 文明様
- 小郷 晶子様
- (有)コーワ精起様
- 首藤 和子様
- 真愛幼稚園様
- 田原 明紀様
- 永尾 福康様
- 福岡中部教会様
- 福田美代子様
- 別府野口教会様
- 帆足 琢也様
- 堀 高志様
- 松本 常圃様
- 三浦喜美子様
- 宮崎 和恵様
- 山口産業(株)様
- 吉井 建之様

- 大分市
- 杵築市
- 大分市
- 愛知県
- 別府市
- 東京都
- 熊本市
- 別府市
- 白杵市
- 別府市
- 福岡市
- 大分市
- 別府市
- 東京都
- 別府市
- 別府市
- 大分市
- 別府市
- 成田市

一般寄付

- 井口 順子様
- 井上 セツ子様
- いろは商事(株)様
- 北九州復興教会様
- 県立広島大学三原博光様
- 河野 国弘様
- 匿名様
- 大分教会
- 福岡女学院中学校・高等学校宗教部
- 豊和銀行従業員組合様

自立進学資金

- 安藤 秀典様
- 匿名様

特別物品寄付

- 新入学名入り鉛筆
- 布団・タオル等
- 衣類・靴等
- サッカーボール・文具等
- (株)アパマンショップネットワーク様
- 節分豆 (有)ヴィーナスギャラリー別府店様
- 髪用ゴム・玩具等
- タオル・石鹸等
- 緒方町女性退職現職教職員協議会様
- カルピス
- 「カルピス」ひなまつりプレゼント事務局様
- 衣類多数
- 書籍
- 家具・家電・書籍・ボール他
- 学習机・書籍等
- 椅子・遊具・衣類・靴等
- お菓子・果物・お菓子
- お菓子多数
- お菓子多数
- チョコレート多量
- (有)ダスカジャパンクアウテモック様
- 書籍
- シクラメン多数
- 衣類多数
- 洗剤・文具等

菜の花(観賞・食材)
新一年生リュック・水筒
匿名様

別府中央ライオンズクラブ様

別府ロータリークラブ様

野球用品
松岡瀬里華様

果物・野菜等
宮崎枝枝様

クッキー・焼き菓子多種多量
諸富トミエ様

お菓子多量
(株)ユーコー様

招待・奉仕

- 小・中学習指導 安東秀典・井上せつ子様
- 新高校生との昼食 安東秀典様
- 絵本読み聞かせ等 お話しボランティア様
- プロレス招待 大分県社会福祉協議会様
- 児童のヘアークット ケイハー様
- 牡丹の花壇づくり

- 別府ロータリークラブ様
- ナベサダコンサート招待 山口産業(株)様
- お餅付き 南荘園町・白鳳会様
- お餅付き手伝 大原智子様

ご案内

グレースホームの集い

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして生活している子どもたちの集いとして「バーベキューの夕べ」を本年度は、**7月30日(土)17時より**園庭にて開催します。お気軽においで下さい。事前に電話をいただければ助かります。もちろん参加費は無料ですし、お志等も固く辞退させていただいております。

※本年5月の子ども祭りは、熊本・大分大地震のため中止させていただきました。

クリスマス会は、12月17日(土) 14時より開催予定です。

シェア・ザ・ワールド・in BEPPU

一昨年に引き続き、渡辺貞夫様のご協力により、栄光園・別府光の園・別府平和園の3施設合同の子どもたちがバックコーラスに参加して、**8月7日(日)午後、ビーコンプラザにてコンサート**が予定されております。チケットの確保枚数は少ないのですが、観覧ご希望の方は栄光園までご連絡ください。

編集後記

2015年度が皆様に支えられ、子どもたちと職員の成長と喜びの中で桜吹雪の新年度へと引き継がれましたことは感謝したくありません。本年度より、児童養護では栄光園のすぐ近くのごく普通の家で5名の子どものうち4名の職員が生活を始めました。大分県で唯一の乳児院は改革に向けて計画を進める新たなスタートの年となります。この喜びの4月を熊本大地震が暗転させました。この影響で別府や別府も震度6弱の大きな地震に見舞われました。乳児院や児童養護の屋根が一部崩壊し、地割れが数メートル露出し、子どもたちは職員と共に初めて体験する、具体的な人的被害はありませんが、再度来襲の恐れは続き、PTSD(心的外傷後ストレス障害)を懸念した対応を図っております。

(敏)